



フランス短期留学

語学留学×フィールドワーク

実施日:2022年7月31日～2022年8月12日

実施場所:パリ(フランス)

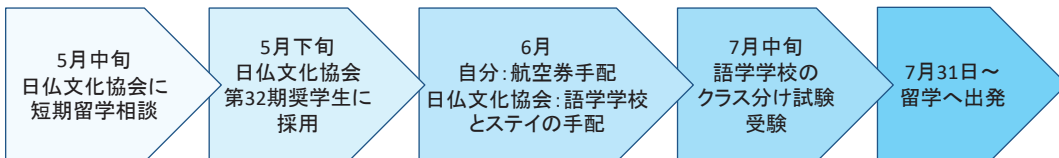
発表者:医学部医学科4年 川崎 実代



1.概要

フランス語の上達に加えて、フランスが他先進国と比較して高い女性の就業率と出生率を誇る理由を探究するため、パリに2週間留学へ行った。(株)日仏文化協会を通じて、語学学校とホームステイ先の手配を行った。現地では、語学学校に通いながら、現地の人々に対しインタビュー活動を行った。加えて、現地の医療学生と交流し、現地の教育機関や医療機関を回りながら、フランスの教育事情、医療事情に関して学んだ。

2.留学までの流れ



3.活動内容

①語学の上達

○語学学校LUTECE LANGUE

図1は、生徒の誕生日をクラスのみんなで祝いしたときの写真である。2週間という短い期間であったが、フランス語を通してすぐに仲が深まった。授業は「会話」に重きを置いた形式で、分からない表現があれば先生にすぐに質問しやすい環境であり、実践的な会話を高めることができた。



図1 語学学校での楽しいひと時

場所	パリ7区	クラス人数	8人
授業時間	9:00～12:15	生徒国籍	アメリカ、イタリア、スペインなど様々

○ホームステイ

渡仏前は自分のフランス語に自信がなかったが、ホストファミリーは毎日優しく接してくれ(図2)、毎朝、毎晩の食事ではフランス語で沢山会話をすることができた。勇気を出して「ホームステイ」を選択したが、この選択が2週間という短期間の留学であってもスピーキング、リスニングの予想以上の上達に貢献した。日々のホストファミリーとの会話で繰り返し使う表現は、「勉強する」「覚える」というより、いつの間にか頭の中での日本語からの変換を介さずとも口から出てくるようになっていった。



図2 ホストファミリーとの夕食

②インタビュー活動

日本では、第一子の平均出産年齢を迎える25歳から35歳にかけて女性の就業率が下がる一方で、フランスでは下がらない。加えて、フランスは先進国の中で25歳から50歳の女性の就業率も高い水準である。合計特殊出生率に関しても、フランスは1.9(2021年)と日本の1.4(2021年)や他EU加盟国と比較して高い。このように、フランスは日本にとって「女性の社会進出」と「少子化対策」の観点で参考になる国であると考えた。

そこで、現地において語学学校の先生方やホストファミリーなどに対し、フランスが女性の社会進出と他先進国と比較して高い出生率を両立させている理由についてインタビューを行った。

～インタビューの一部～

Q. **なぜフランスの女性の多くは出産しても、すぐに職場復帰できていると考えるか？**

A. 「**“出産後すぐに職場復帰する”**というのがフランス人にとって**当たり前の価値観**。

自分(女性)の母親も、夫の母親も「いつ産後は復帰できそう?」と聞いてくるし、それが当たり前。」

「**ベビーシッターの制度が充実しているから**。バイトでベビーシッターしている高校生が多い。」

「フランスでは出産は**無痛分娩**が主流だから。無痛分娩のおかげで体もこころもしんどくない。」

「**男性の役割と女性の役割を区別して考えていない**。」

「仕事についてもフルタイムで働いていない。だけど、フランスでは**フルタイムもパートも賃金が同じ**。社会保障制度にも加入できる。

フランスでは、“パート”は単に“労働時間が他の社員よりも短い”というだけの意味であり、**パートを選択すれば家庭と両立できる**。」

③医療学生との交流

パリにて助産師を目指す医療学生とも交流し、フランスの教育事情や医療事情などについての話を聞いた。現地の子どもたちがどのような教育を受けているのかを知ることで、現地の人々の価値観の形成に与える要素について教育面から考えることができた。また、フランスの医療事情についても詳しく知ることができた。

～フランスの教育事情～

・公立学校の学費は**小学校から大学まで全て無料**。

(学費は**社会が税金で負担するのが当然である**という考え方が根強い)

・運動会や授業参観といった**学校行事がほとんどない**。(共働きの家庭が多い)

・**日直、掃除、部活がない**。(学校では勉強以外のことはしない。**行儀やマナーは家庭で学ぶもの**という考えが強い)

～フランスの医療事情～

・フランスでは**かかりつけ医制度**が採用されており、保険診療を受ける上での最初のステップとして、かかりつけ医に受診することが義務となっている。公立病院にかかる場合は予約待ちが2、3ヶ月先になることも多いが、私立病院では医療費が高額になるものの専門医への受診が早い。

・フランスでは**ほとんどの妊婦が無痛分娩**を選択する。医療保険に入っていれば、公立病院では妊娠・出産にかかる費用は**基本的に全て無料**。

4.まとめ

2週間という短い留学期間であったが、語学学校の先生や生徒、ホストファミリーなどとの多くの会話を通じて、フランス語が上達できたと実感している。今回の留学の成果が無駄にならないよう、更なる語学力の向上を目指して、フランス語の学習を続けていきたい。

また、フランスが他先進国と比較して高い女性の就業率と出生率を誇る秘訣について、現地の人から直接意見を聞いたことは非常に有益であった。フランス社会の考え方、社会制度、教育・医療事情は、日本社会と異なる部分が多くあることを知ったが、それぞれの着眼において、人々の働きやすさ、女性の出産のしやすさに関連する要素があるように感じた。日本社会がより良くなるための参考として、海外に目を向けてみることの大切さを実感した。